THPコースにおける学び
-大学院での生活を振り返ってー

名古屋大学大学院医学系研究科
博士課程前期課程2年
看護学専攻　杉本　智美

大学院進学の動機　1

●臨床経験

突然の病で重度の障がいをもった子どもの家族の言葉

「わが子のように思えない」

→退院後数カ月して

「大きくなったでしょ」

穏やかな親子の様子を見て

●どのような日々を過ごしてきたのか

●親子関係をどのように築いていったのか

●看護師としてやるべきことは

大学院進学の動機２

●子どもと家族の生活
　子どもと家族が大事にしていること

●臨床の中で自分が気になったこと、
　思ったことに向き合う

●自分の疑問に向き合う（自分の課題）
→名古屋大学大学院進学

　何か看護のヒントを得たい
→ＴＨＰコースを選択

幅広い分野の人との交流を通して

- 授業の場そのもの -

・様々な分野で働く看護師・他の職種との関わり
・小児から高齢者まで幅広い発達段階にある人の現状
・広い視野で改めて小児の看護を考えた

- 自分の考えに向き合うきっかけ -

・自分の価値観や、信念とは違う？
→自分と異なる考えをとりこむことが難しい
→感情が先行
・自分とは異なる人の意見
→「同じでない」ことの意味

●自己の視点と異なる情報への対応の変化

大学院　　ＴＨＰ　　研究

THPの演習を通して感じたこと

・看護の専門性って何だろう？
●様々な年齢や段階で獲得する課題や自己のセルフシステム
●家族の経験してきたことにおける価値を理解をすること

・専門性を発揮・伝えることが出来ない
→伝えることの意味
・「看護」とは？の問いに対する自己の考え
→患者・家族中心のケア
　尊厳・尊重　情報共有　参加　協働
●看護の専門性
●チームとして大切にすること

・高齢者の事例を選択
・広い視野で看護を考える

THPの授業を通して学んだこと

●様々な分野で働く看護師・専門性を超えて多くの人と関わることが出来た

●小児から高齢者まで幅広い視野をもつ

●それぞれの専門性を改めて考えた
●専門性を伝えることの意味
●自分の思考の特徴を知り、変化を実感する

患者・家族中心のケア
尊厳・尊重　情報共有　参加　協働